

土木文化講座

市民幹事会

土木文化講座として、平成11年度は総合学習に向けての取り組みと講演会を行いましたので、その概要についてご報告いたします。

市民幹事会では、2002年度から小中学校で実施される予定の総合学習に向けて、どのように取り組んでいけばよいかを検討するため、近畿2府5県の小中学校（4,944校）の先生方を対象に土木に関するアンケートを行いました。その結果、約9%にあたる455校から、先生方が日頃土木に対してどのように考えておられるか、また、子供たちが土木に興味を持ってもらうためにはどうしたら良いかなど数多くの大変貴重なご意見をいただきました。

このアンケート結果をもとに、総合学習に向けた取り組みの第一段として、児童・生徒を対象とした土木をPRするパンフレットを作成しました。その内容は、子供にもわかりやすいようにイラストを主体にして、土木事業が私たちのくらしに身近なものであることを説明するものとししました。なお、表紙にはポスターのテーマである「シビルドリーム - 土木はいつもあなたの傍にいます - 」をタイトルとし、さらにイラストに土木の日ポスターの優秀賞である山西敦美さんの作品を採用しました。このパンフレットをアンケートにご回答いただいた小中学校と各市町村教育委員会に配布しましたが、今後は土木学会の各種行事などで配布の予定です。

一方、講演会は、平成12年2月29日に、土木学会関西支部が主催、近畿地方建設局の後援、びわこ放送の協力により、地方見学会を実施した滋賀県のピアザ淡海において、「探訪 淡海の歴史文化」と題して開催いたしました。まず、第一部では穴太衆積みの後継者の栗田純司氏から「穴太衆の心」としてご講演いただきました。1576年（天正4年）に織田信長が安土に築城するにあたり呼び寄せた時に穴太衆石積という言葉が初めて出来て以来、現在まで脈々と受け継がれている穴太衆石積の語源とルーツ、その積み方について具体的にご説明いただきました。また、第二部では歴史街道推進協議会事務局顧



講演中の栗田純司氏

問の真木嘉裕氏から「歴史文化を生かしたまちづくり」としてご講演いただきました。水郷と近江商人のまちとして八幡堀をよみがえらせ、水と緑に親しむ快適なまちづくりが進められている近江八幡市と月明かり古城のまちとして彦根城南側の夢京橋キャスルロードで町屋街が再現させた彦根市のまちづくりについて、スライドを交えてわかりやすくご講演いただきました。

当日は、時折雪が激しく舞うあいにくの天候でしたが、会場ではご講演者の親切なご説明に参加者が熱心に耳を傾けられていましたので、時間一杯の講演にご満足いただいたものと考えております。

